

指 導 ・ 講 評

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部
学校教育支援・連携担当 研究員

平沼 源志 様

★令和5年度～令和7年度重点課題研究

共生社会の担い手を育む教育に関する研究

－障害理解教育の検討を中心に－

研究代表者： 久保山茂樹

研究副代表者： 嶋野 隆文・平沼 源志

研究分担者： 伊藤 由美・竹村 洋子

谷戸 諒太・柘植 美文

山本 晃・横尾 俊



研究協力者・研究協力機関

<研究協力者 (敬称略・50音順)>

- 青山 新吾 (ノートルダム清心女子大学)
- 宇野 宏之祐 (北海道室蘭聾学校)
- 加藤 典子 (文部科学省特別支援教育課)
- 古川 和史 (静岡県教育委員会静岡西教育事務所)
- 杉浦 徹 (東北福祉大学)
- 森田 浩司 (文部科学省特別支援教育課)

<研究協力機関>

- 北海道 佐呂間町教育委員会
- 北海道 佐呂間町立佐呂間小学校
- 新潟県 十日町市立十日町小学校
- 長野県 須坂市立須坂小学校
- 静岡県 浜松市立八幡中学校
- 香川県 香川大学附属坂出小学校
- 佐賀県 佐賀市立本庄小学校



研究の趣旨

- 私たちが目指す社会は **共生社会** である。
- 共生社会の形成に向けて、子どもたちが10年後、20年後「**共生社会の担い手**」となるための教育活動を展開する必要がある。
- 「**共生社会の担い手を育む教育**」
= **多様性を理解し尊重できるようになるための教育**
について具体的な内容、方法を検討する。
- **小・中学校の通常の学級の教師**が、「共生社会の担い手を育む教育」を実施する**必要性を理解**でき、「**自分の学級でも実施してみたい**」、「**実施してよかった**」と実感できる**モデル**を教育現場や教育行政に提供することを目指す

共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システムの構築

特別支援教育については、共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われることが重要であり、（中略）

インクルーシブ教育システムにおいては、障害のある子供と障害のない子供が**可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求**するとともに、障害のある子供の自立と社会参加を見据え、**一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導**を提供できるよう、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要。

多様性を理解し尊重できるようになるための教育 の必要性

共生社会に向けて、多様性を理解し、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「**障害の社会モデル**」を踏まえ、差別や排除の行動を行わず、**お互いの良さを認め合い協働していく力を養うべく、指導の方法を検討すべき**である。

(具体的施策)

- ①すべての子供達に「心のバリアフリー」を指導
- ②すべての教員等が「心のバリアフリー」を理解
- ③障害のある人とともにある「心のバリアフリー」授業の全面展開
(交流及び共同学習)
- ④障害のある幼児・児童・生徒を支える取組
- ⑤高等教育(大学)での取組

通常の学級の授業や学級経営において 多様性の理解や尊重を進める必要性

集団指導において、障害のある児童など一人一人の特性等に応じた必要な配慮等を行う際は、教師の理解の在り方や指導の姿勢が、学級内の児童に大きく影響することに十分留意し、**学級内において温かい人間関係づくりに努めながら、「特別な支援の必要性」の理解を進め、互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築いていくことが大切である。**

「共生社会の担い手」を育む教育の重要性

＜小学校学習指導要領 前文＞

これからの学校には（略）、一人一人の児童が、**自分のよさや可能性を認識**^①するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働**^②しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**^③となることができるようにすることが求められる。

幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校にも同様の記載

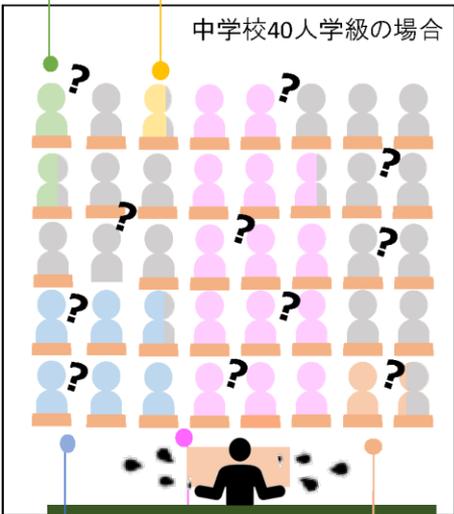
すべての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、子供の認知の特性を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するとともに、一つの学校がすべての分野・機能を担う構造から、協働する体制を構築し、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織(教育DX)への転換を目指す。これを実現するためには、皆同じことを一斉にやり、皆と同じことができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことも必要となる。

子供たちが多様化する中で紙ベースの一斉授業は限界

発達障害の可能性のある子供

特異な才能のある子供

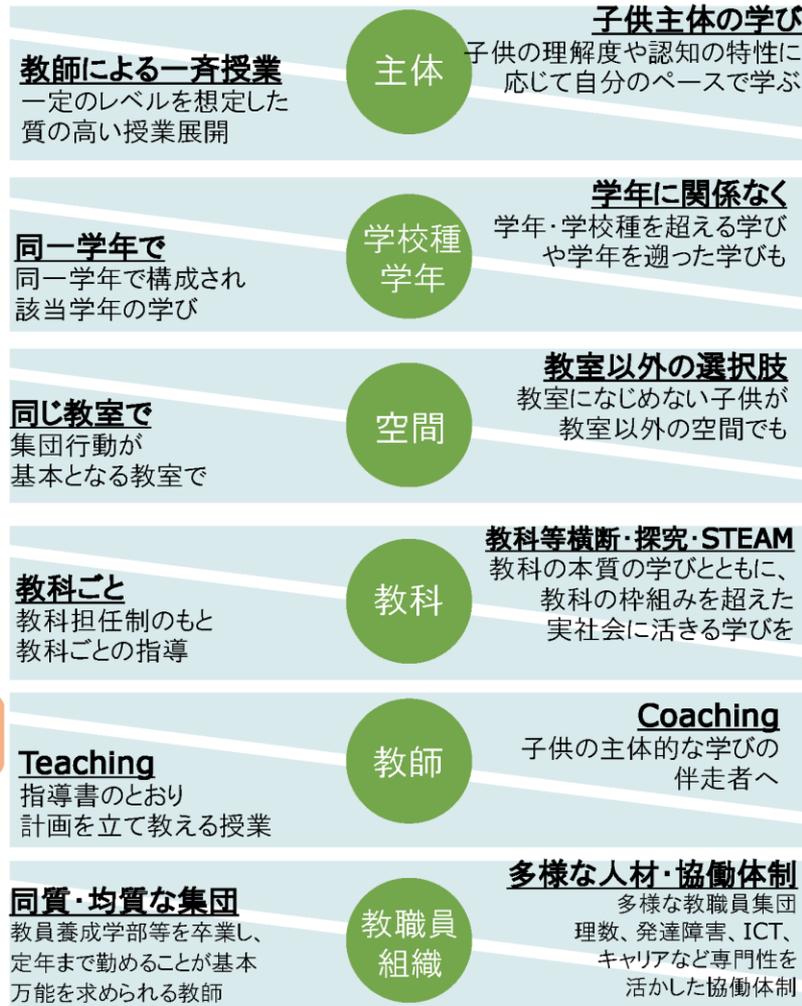
中学校40人学級の場合



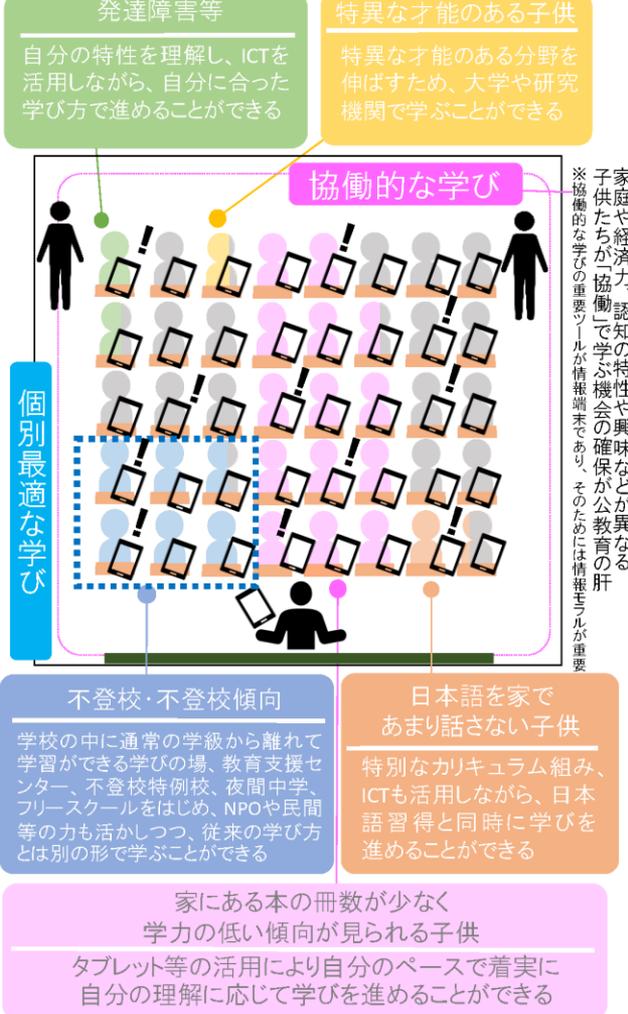
不登校 不登校傾向
日本語を家であまり話さない子供

家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供
※語彙や読解力の低下は重要な教育課題

2017年改訂により資質・能力重視の教育課程へと転換



多様な子供たちに対してICTも活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



※子供の数の考え方・定義等については、スライド10の出典と同様。
※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソースでは一般的に限界があることを想定して図式化

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・こども基本法 等

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**等による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要
- ・**Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれが**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会が幸せや豊かさ**を感じられるものとなるための教育の在り方
- ・幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、**協調的幸福と獲得的幸福のバランス**を重視
- ・**日本発の調和と協調**（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に**社会の形成に参画**、持続的**社会の発展**に寄与
- ・「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善、大学教育の**質保証**
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で**留学等国際交流**や大学等**国際化**、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献する**ESD**等を推進
- ・**リカレント教育**を通じた高度人材育成

②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの**一体的充実**や**インクルーシブ教育システム**の推進による**多様な教育ニーズへの対応**
- ・支援を必要とする子供の**長所・強みに着目**する視点の重視、**地域社会の国際化**への対応、**多様性、公平・公正、包摂性**（DE&I）ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
- ・**ICT等の活用**による学び・交流機会、**アクセシビリティの向上**

人生100年時代に**複線化する生涯**にわたって**学び続ける**学習者

③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・**持続的な地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等の社会教育施設の機能強化**や**社会教育人材の養成と活躍機会**の拡充
- ・**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**、家庭教育支援の充実による**学校・家庭・地域の連携強化**
- ・**生涯学習**を通じた自己実現、**地域や社会への貢献**等により、**当事者として地域社会の担い手**となる

④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX））において、第3段階を見据えた、**第1段階から第2段階への移行**の着実な推進

GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進

教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、**教育データの分析・利活用**の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に応じた最適な組合せ

⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の**一体的推進**、**ICT環境の整備**、経済状況等によらない**学び確保**

NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い**教育研究環境**等の整備、**児童生徒等の安全確保**

各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等

研究の目的

全国のすべての小・中学校で
「共生社会の担い手を育む教育」が推進されることを目指す

そのためについて以下を明らかにすることを目的とする

1. 小・中学校で行われている**「障害理解教育」**（特別支援学校による出前授業も含む）の現状と課題
2. 小・中学校の**授業や学級経営で行われている多様性を理解し尊重するための実践**の現状と課題
3. 上記を踏まえた**「共生社会の担い手を育む教育」のモデル作成**とその妥当性

令和5年度の研究



1. 「共生社会の担い手を育む教育」に関する知見の収集
2. 小・中学校等における多様性を理解し尊重するための教育に関する訪問調査の実施
 - ・対象：小学校7校、中学校2校、高等学校1校
3. 特別支援学校による「障害理解教育」（小・中学校への出前授業）に関する調査の実施
 - ・対象：2県の特別支援学校45、回答：39、回収率：86.7%
 - ・出前授業の実施は12校（30.8%）
 - ・実施した授業は、「交流及び共同学習の事前授業」、「総合的な学習の時間の授業」、「人権学習としての授業」など

小・中学校における多様性を理解し尊重するための教育に関する訪問調査（概要）

目的

小・中学校の日常の授業や学級経営における多様性を理解し尊重するための実践について実態を明らかにする。

方法

- 手続き：訪問によるインタビュー調査（半構造化面接）
- 対象校：10校（小学校7、中学校2、高等学校1）
「共生社会の担い手を育む教育」に取り組んでいると考えられる学校をwebサイトや教育委員会等の情報から検索。
 - ・子どもの多様性を理解し尊重すること等を学校経営案等に明記
 - ・障害理解教育に特色ある実践を行っている
 - ・「共生社会」「インクルーシブ」をキーワードとして研修、研究を実施
- 対象者：対象校において上記の実践について最も承知している
教師、校長、教頭等
- 実施時期：令和5年7月～12月

多様性を理解し尊重するための教育に関する訪問調査の対象校

学校名	特色を一言で表現すると
A小学校	一人一人を大事にし、心地よく学べる授業を目指す学校
B小学校	地域ぐるみの交流で共生社会の担い手を育む学校
C小学校	特別支援学級と通常の学級の境目がない学校
D小学校	多様な子どもが同じ場でともに学び、ともに育つことを大切にしている学校
E小学校※	3施設を繋ぐ100メートル廊下が、心も繋げている学校
F小学校※	小学校と特別支援学校が一体となって多様な学びの場を形成し地域の子どもを育てている学校
G小学校※	特別支援学校と合築した教育環境を最大限に生かしてインクルーシブ教育を実践する学校
H中学校	いつも一緒が当たり前、校内交流を学校教育活動の柱に据え、多様性の理解を育む学校
I 中学校	一人一人の子どもと丁寧に関わる校長のもと、教師も子どもも人のことを思う気持ちが育まれている学校
J高等学校※	豊かな交流及び共同学習を通じて、学校設定教科「共生社会と人間」の学びを日常実践できる学校

※印のある学校は、同一敷地内に特別支援学校が設置されている

多様性を理解し尊重するための教育に関する訪問調査の内容

1. 学校規模等概要

児童生徒数／学級数（特別支援学級、通級指導教室設置状況等）

2. 学校経営における特別支援教育の位置付け

- (1) 学校グランドデザインにおける特別な支援を必要とする子どもやその教育の表現
- (2) 特別な支援を必要とする子どもやその教育に関する校内研究や校内研修
- (3) 交流及び共同学習の実施状況
- (4) 障害理解教育に関わる取組の状況や障害理解教育に関する考え方

3. 多様性を理解し尊重するための教育に関する特色ある取組

- (1) 取組の状況（背景、内容、成果、課題）
- (2) 子どもたちの実態
 - ・特別支援学級や通級指導教室について子どもたちはどのように捉えているのか
 - ・どのような態度でかかわっているのか
 - ・取組が、子どもたちにどのような影響をもたらしているか
- (3) 「共生社会の担い手」として、どのような子どもになってほしいと考えているか

令和5年度の研究のまとめ



- 「共生社会」「多様性」等をグランドデザインに明記して、日常の授業・学級経営で取り組んでいる学校が既に存在
- そうした学校では、子どもも教師も、多様な子どもが学級に存在していることを当然のこととして受けとめて生活している
(具体的には)
 - ・地域で共生社会の担い手を育むという発想
 - ・交流及び共同学習や日常の交流がしやすい環境
 - ・核となる教師の存在や教師間の良好な同僚性
 - ・教師自身が多様性を認める姿が子どもに伝わる
- 小・中学校で（出前授業として）障害理解授業を実施している特別支援学校が約3割
- 出前授業は子ども同士や学校のつながり等の成果がある一方、小・中学校の主体的な取組の促進が課題

共生社会の担い手を育む教育を実現するための要素と構造

子ども

教師

ともに過ごすことが当然
「支援する-される」ではない

多様性を受け入れる
授業を変えていく

往還
する
学び

ともに過ごす時間の積み重ね
葛藤、折り合い、納得など

往還
する
学び

多様性に出会う・気付く
通常の学級の中の多様性 / 交流及び共同学習

一人一人の子どもが
大切にされる学級

教師間の同僚性
(一人一人の教師が大切にされる学校)

校長のリーダーシップ → 学校が目指す姿・方向性 (グランドデザイン)

地域の人々の願い や 自治体が目指す地域社会の姿・ビジョン